

第57回 全日本教職員バドミントン選手権 2018 愛知大会へのいざない

2020年東京オリンピックに向けて、着々と強化が進み、国際舞台での活躍が著しい日本バドミントン界の今日は、青少年を指導されてこられた諸先生方のご尽力の賜物であります。

このたび、全国から数多くの先生方をお迎えし、第57回全日本教職員バドミントン選手権大会をここ一宮市^{いちのみや}で開催できることは極めて喜ばしいこととあります。愛知県としては第30回記念大会を東三河の豊橋市で開催して以来27年ぶりとなり、今回は尾張北西部の経済の中心、一宮市での開催となります。

一宮市は濃尾平野の中央に位置し、木曾の清流と温和な気候、風土に恵まれ、古くから真清田神社の門前町として繁栄してきました。江戸時代には縞木綿や絹織物、明治以降は毛織物工業の中心地として急激な発展をとげ、現在は総合繊維産業として全国的に知られるようになりました。また「モーニング発祥の地」でもあり試合の合間に尾張地方の喫茶文化を味わってみてはいかがでしょうか。

一宮市へのアクセスは JR と名鉄の2鉄道及び国道 22 号線が市の中心部を南北に走り、近隣市の名古屋市と岐阜市からは 15 分～20 分程の距離にあります。市南部には名神（東名）高速道路が東西に抜けジャックションで結ばれた東海北陸自動車^{トヨタ自動車}が本市に合流していますので多方面からスムーズにお越しいただけます。

競技会場は市北部木曾川沿いの光明寺公園内にある『一宮市総合体育館 {DIADORA アリーナ, いちい信金アリーナ A・B の3アリーナ}』をフル活用し全館空調を備え他会場移動なく1体育館で開催しますので競技に専念していただくと確信しております。唯一の難点は体育館への公共交通が路線バスで1時間に1便のみの運行と不便です。お車でお越しの方は約1000台入構可能な無料駐車場を開設していますので便利です。本会場は日本



最大の国営木曾三川公園三派川地区の一角に隣接していますので、展望タワー「ツインアーチ 138」をはじめ河川環境楽園、世界淡水魚水族館「アクア・トトぎふ」（各務原市）は散歩がてらチームや家族で楽しんでいただけます。尾張地方には国宝犬山城、博物館明治村、日本モンキーパーク、リトルワールド、清州城。木曾川の対岸は岐阜県になり、航空博物館、岐阜城、夏の風物詩といえば、かがり火が幻想的な夜の鶺鴒飼で「木曾川うかい」「長良川の鶺鴒飼」を楽しめます。いずれもお車で30分圏内です。木曾川を上流に数km行くと、現在NHKで放映中の朝ドラ「半分、青い。」のロケ地に遭遇できると思います。



なお、8月11日の研修会では、(公財)日本バドミントン協会選手強化本部ジュニア強化部員(U13)でご活躍の「知ってる?バドミントン クイズでスポーツがうまくなる」の著者 中口直人氏にご講演していただく予定です。ジュニア指導者としてのアイデア溢れる手法をご紹介しますと思います。開会式、レセプションと、熱戦前にこちらからも奮ってご参加をお願いいたします。

全国から沢山の先生方のお越しを心待ちにしております。